



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新北海道教育会館	階数	地上9F
建設地	札幌市中央区南4条西12丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人
建物用途	事務所・集合住宅	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
竣工年	2024年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	2,100 m ²	評価の実施日	2022年9月1日
建築面積	1,297 m ²	作成者	
延床面積	5,479 m ²	確認日	
		確認者	

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外のオンサイト手法 79%

④上記+オフサイト手法 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]=

(事務所)BEIm: 0.73、(住宅)BEI: 0.96

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項

総合 道内の教職員関係機関の事務所と共同住宅の複合施設である。事務所エリアと共同住宅エリアのゾーニングを明確にし分離し、分かりやすく利用しやすい施設構成とした。北海道らしいデザインの採用により、全道から集まる教職員関係者の一体感を醸成でき、北海道の子どものより良い未来のための社会活動・社会貢献活動の拠点となる施設づくりを行った。		A 省エネルギー 開口面積を抑えた外観とし、開口部は事務所部分にLow-e複層ガラス、住宅部分に2重サッシを採用、高い外皮性能を確保した。高効率機器、LED照明の採用などにより省エネ性能向上を図った。
B 省資源等 耐用年数の長い内装材の採用、節水型の衛生器具の採用などにより省資源化に配慮している。	C 緑化 前面道路沿いに札幌の植生を考慮した植栽を積極的に行うことで、前面道路に対して良好な景観を形成している。	D 雪処理 敷地内歩道、車路をロードヒーティングとし、冬期の除排雪作業の軽減に努めている。また高層棟屋上パラペットにおいて雪庇防止対策を行った。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし	LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)
 (仮称)北海道教育会館

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.40		-	2.7
1 音環境				2.2	0.15	2.6	1.00	2.3
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.46	3.0	0.50	
1.2 遮音				1.3	0.46	2.2	0.50	
1 開口部遮音性能				1.0	0.83	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	0.17	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	2.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.09		-	
2 温熱環境				2.0	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.52	3.0	0.63	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.32	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.16		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				2.8	0.25	3.1	1.00	2.9
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.4	0.30	
1 昼光率			昼光率:(事務所)1.75、(住宅)6.80	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				2.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.56	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.2	0.36	3.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.43	3.0	0.33	
2 自然換気性能			自然換気窓(電動オペレーター)の設置	5.0	0.15	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.43	3.0	0.33	
4.3 運用管理				3.0	0.09		-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			全館禁煙を実施	5.0	0.50		-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	3.0
1 機能性			2.6	0.40	4.2	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ			2.7	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性		1.0	0.15		-	
2	高度情報通信設備対応	共同住宅の各住戸でGbitクラスのブロードバンドが利用可能	3.0	0.15	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	0.71		-	
1.2 心理性・快適性			2.8	0.30	3.0	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)		3.0	0.15	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		2.0	0.15		-	
3	内装計画		3.0	0.71	3.0	0.50	
1.3 維持管理			2.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 耐用年数:床20年、壁30年、天井30年	5.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源 給水給湯管にステンレス鋼管を使用	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
2.4 信頼性			3.4	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	耐震性の高い配管支持方法を採用	4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器の浸水配慮、災害時に有線電話使用可能	4.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.8	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			2.2	0.13	2.2	0.50	
1 階高のゆとり			1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率:(事務所)0.168、(住宅)0.22	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.13	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.74		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m =0.65	2.7	0.20		-	2.7
2 自然エネルギー利用	省エネ		2.8	0.10		-	2.8
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = - (事務所)BEI _m :0.73、(住宅)BEI:0.96	3.5	0.50		-	3.5
4 効率的運用			4.0	0.20		-	4.0
集合住宅以外の評価			3.5	0.44		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ	自然通風を採用	4.0	0.50		-	
集合住宅の評価			4.5	0.56		-	
4.1 モニタリング	省エネ	エネルギー消費の表示記録が可能	4.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ	設備や仕様について入居者への説明を実施	5.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型衛生器具の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60		-	3.7
2.1 材料使用量の削減	省資源		3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	エコマークを取得した内装材を採用	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	躯体、仕上、設備が容易に分別解体可能	5.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		F☆☆☆☆の塗料を採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出量が少なめ	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 軽減		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.0	BEEランク	B+
建物名称	(仮称) 北海道教育会館				
建物用途	事務所・集合住宅				
延床面積	5,478.7 m ²				

2 重点項目への取り組み

地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★
	省資源等	★★★★☆
	緑化	★★★☆☆
	雪処理	★★★★☆

レーダーチャート

省エネルギー性能
5.0
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0

雪処理

省資源等への取組

緑化への取組

★1=スコア(最低点~最高点)20%以下
★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下
★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下
★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下
★5=スコア(最低点~最高点)80%以上

3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー (最高点 23.2 最低点 7.1)		合計		15.6点 / 23.2点	
Q1 温熱環境	スコア 0.7 / 1.1	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 2.2 / 4.0		
Q1 光・視環境	スコア 1.3 / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.1 / 2.0		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.0 / 10.0		
		LR1 効率的運用	スコア 3.3 / 4.0		
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)		合計		15.3点 / 23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 6.7 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 / 1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.8 / 5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 / 4.4		
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)		合計		7.0点 / 15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.7 / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 2.4 / 6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.9 / 2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計		2.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数